

あのとぎのうた声

上原正吉

私は大平派ではないので、政治上のことで大平さんとお話したことはほとんどなかったが、三木内閣当時、福田さんと一緒に、野方の私どもの家を訪ねて下さってから、ご懇意に願うようになった。

その後、縁あって大平さんの三男明君と、私の孫の吉子が結婚して、深くお付き合いをするようになった。そんなわけで、大平さんのお人柄を知ったが、付き合えば付き合うほど、好きになってくるお人だった。

大平さんはなかなかシンの強い人でもあるが、その反面、とても「素直で人が良い」といわれていたが、私もそう思う。家庭でもいたってやさしく、奥さんなどは一度も叱られたことはなかったという話をきいた。孫の吉子も大変可愛がつてもらって、昨年の五月、カーター大統領訪問のときも、吉子を私設秘書として、身のまわりのお世話をさせながら、お供としてアメリカへ連れて行って下さった。これが最後になるとは吉子も思わなかった。人一倍悲しみが深かったようだ。

明君よりずっと年下の吉子に向って「明をたのむよ、明をたのむよ」と何回もいわれたとのことだった。私どもでは政治家の家庭には嫁がせたくないと思っていたが、いまでは大平さんと親戚になって本当によかったと思っている。

大平さんの好物はスキヤキで、吉子が遊びに行くと、いつもスキヤキをして、ごちそうしてくれた。また四国流の塩アンの大福もちが大好きで、吉子にも「食べなさい、食べなさい」とすすめてくれたという。帰るときは必ず、「おじいちゃん、おばあちゃんによろしくいってくれ」といってあげてくれた。

いつだったか、私の誕生日に奥さんと一緒に野方にお見えになったとき、私がカラオケで歌謡曲をうたったところ、大平さんも「夜霧の第二国道」をうたった。ふだんめつたにうたったことのない歌を私のためにうたってくれたものと思う。あのとときのうた声が、いまでも耳に残っている。

まさか亡くなるとは思わなかったので、病院にもおつかがいせず、最後はお正月にお目にかかったままで、永の別れになってしまい、まことに残念で、心残りでならない。

大平さん、明君と吉子は、大平家にとっても上原家にとっても、大切な可愛い子供であり、孫であります。大平さんのぶんまで、私どもで可愛がりますので、ご安心下さい！

(大正製薬会長)